

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 0	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Leptin levels of alcohol abstainers and detoxification patients are not different. 禁酒家のレプチンレベルと依存症患者の禁酒後のレプチンレベルに差はない	
執筆者	
Wurst FM, Bechtel G, Forster S, Wolfersdorf M, Huber P, Scholer A, Pridzun L, Alt A, Seidl S, Dierkes J, Dammann G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2003, 38(4):364-368.	
キーワード	
アルコール依存症、禁酒、レプチン	
要 旨	
<p>レプチンはサイトカインタイプペプチドホルモンであり、アルコールの摂取とその常習性時の推定される状態マーカーとして使えることが示唆されている。本研究の目的はアルコールの状態とその特性のマーカーとしてレプチンを評価し、現在アルコール中毒状況についてレプチンレベルをマーカーとすることが正しいか否かについて検討した。</p> <p>方法として、18人のアルコール依存症の患者、血液中のエタノールの平均濃度は202mg/dlで、平均43.5歳、過去7日間で1075gのエタノールを摂取した人を用いた。血液中のサンプルは1日目(まだアルコール中毒状態)禁断症状時の7日目に測定した。比較のために、性別、年齢、BMIを考慮した。また平均の細胞量、ガンマグルトミルトランスフェラーゼ(GGT)、血中グルコース、コレステロール、トリグリセリド、体組成(生物インピーダンス測定)を同時に測定した。統計解析にはSPSS11を用いた。レプチンレベルは平均1.71ng/ml、1日目は2.65ng/ml、アルコール禁断症状7日目は2.85ng/ml、一方、禁酒家では2.2ng/mlであった。これらの濃度は有意な差は観察されなかった。しかし、1日目のレプチンレベルとその後のレプチンレベル、体脂肪重量、1日の喫煙量、GGT、血中アルコール濃度では相関が観察された。以上の結果はレプチンレベルがアルコール状態、特徴マーカーとしての仮説を支持する結果ではない。アルコール依存症の人が禁酒したときに急速な中毒のごく一部の影響だけがレプチンレベルで測定できるのではないかと推察される。</p>	